

# リンドウ栽培50周年

—100年続く産地を目指して—

国内で販売されるリンドウの約30%のシェアを誇る「安代りんどう」の栽培が始まってから本年度50年の節目を迎えました。

節目を記念し、安代にリンドウが根付いた経緯と、これからの展望を紹介します。

■問い合わせ先 市花き研究開発センター(内線・3611)



## ◎リンドウ栽培の始まり

昭和46年に旧安代町の農業青年クラブが栽培に取り組んだのが、始まりです。安代地区は寒冷地で冷害も多く稲作をするには厳しい地域でした。生活していくために模索し、たどり着いたのがリンドウ栽培。若い世代を中心に花卉生産部会を立ち上げ、当時、県園芸試験場の職員だった吉池貞蔵氏と農業改良普及員だった玉山清氏の指導の下、本格的な栽培が始まりました。

48年に初めて出荷し、その後視察研修やほ場の巡回指導などさまざまな取り組みを経て、60年にリンドウ生産額で長野県を抜いて日本一の生産地となりました。

## ◎品種開発開始

61年から品種開発が始まりました。需要期に開花する品種がなかったことや品質を向上させる目的の品種開発は容易ではありませんでした

が、平成4年に初めてのオリジナル品種「安代の秋」が誕生。その後、花き開発センターの設立や育苗専門の生産者育成により、安定した苗供給が可能となりました。これまでに約30の独自品種が開発され、初夏から晩秋まで長期的に出荷されています。

## ◎世界市場への進出

周年供給や販路拡大を目的

## 部会長の声 ———— 新しいリンドウの「カタチ」を



八幡平花き生産部会会長 立花 賢生 さん

市でリンドウ栽培が始まり50年、歴史の重みを感じています。私がリンドウ栽培を始めたのが25年前。これまで続けることができたのは、農家同士の結束と各関係機関との協力体制の下、地域全体で盛り上げようと、一丸となり取り組ん

できた結果だと思っています。私たちの仕事は、花を咲かせることだけではなく、収穫から出荷までを手掛け、消費者の手元に良い品質のリンドウを届けることです。そのために、一人一人がプロ意識を持ち、生産に当たっています。

今後は、消費者のニーズに沿いながら、八重咲りんどうや赤系品種といったオリジナル品種の開発など新しいリンドウの価値の発信に力を入れ、次の世代へつないでいきたいです。

として、海外での栽培に取り組んでいます。7年にニュージーランドでの生産、14年にオランダへの輸出が始まり、現在は、ルワンダにおける生産拠点づくりをしています

## ◎これからのリンドウ

これまで培った土台を基に、新たな需要を生み出す取り組みに積極的に挑戦します。そのためにリンドウ生産

における課題と向き合い、高齢化による離農や後継者問題の解決を図りながら、生産量を維持するための新規就農対策と労働力や経費負担の軽減を図って生産性の向上を推進していきます

これまで以上に生産者同士の連携や関係機関の協力体制の強化を図り、これから先100年続く産地を目指していきます。